

製品名: NMDA ϵ 3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14760**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	GRIN2C
別名	GRIN2C; NMDAR2C; Glutamate [NMDA] receptor subunit epsilon-3; N-methyl D-aspartate receptor subtype 2C; NMDAR2C; NR2C
遺伝子 ID	2905.0
SwissProt ID	Q14957
免疫原	抗血清はヒト NMDA ϵ 3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 937-986

背景

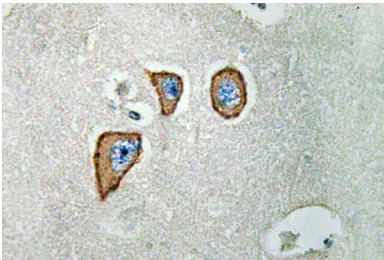
この遺伝子は、イオンチャンネル型グルタミン酸受容体のサブタイプである N-メチル-D-アスパラギン酸 (NMDA) 受容体のサブユ

ニットをコードしています。NMDA 受容体は中枢神経系に存在し、陽イオンを透過し、学習、記憶、シナプス発達などの生理学的プロセスにおいて重要な役割を果たします。この受容体は、異なるサブユニットからなる四量体（典型的にはサブユニット 1 と 1 つ以上のサブユニット 2A~D とのヘテロ二量体）であり、カルシウム、カリウム、ナトリウムを透過するチャンネルを形成します。その特性はサブユニット構成によって決定されます。受容体のサブユニット構成の変化は、パーキンソン病、アルツハイマー病、うつ病、統合失調症などの病態生理学的状態と関連しています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 6 月],機能: グルタミン酸依存性イオンチャンネルの NMDA 受容体サブタイプ。高いカルシウム透過性とマグネシウムに対する電位依存的な感受性を有する。グリシンを介する。類似性: グルタミン酸依存性イオンチャンネル (TC 1.A.10) ファミリーに属する。サブユニット: INADL および DLG4 の PDZ ドメインと相互作用する (類似性による)。ゼータサブユニット (GRIN1)、イプシロンサブユニット (GRIN2A、GRIN2B、GRIN2C、または GRIN2D)、そして第 3 サブユニット (GRIN3A または GRIN3B) からなるヘテロ多量体チャンネルを形成する。組織特異性: 主に脳に存在し、小脳で優位に発現する。また、海馬、扁桃体、尾状核、脳梁、視床下核、視床にも存在する。心臓、骨格筋、膵臓でも検出される。、

研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;長期増強;アルツハイマー病;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における NMDAε3 抗体の免疫組織化学分析。